Regional Network　2023 August　Vol.5

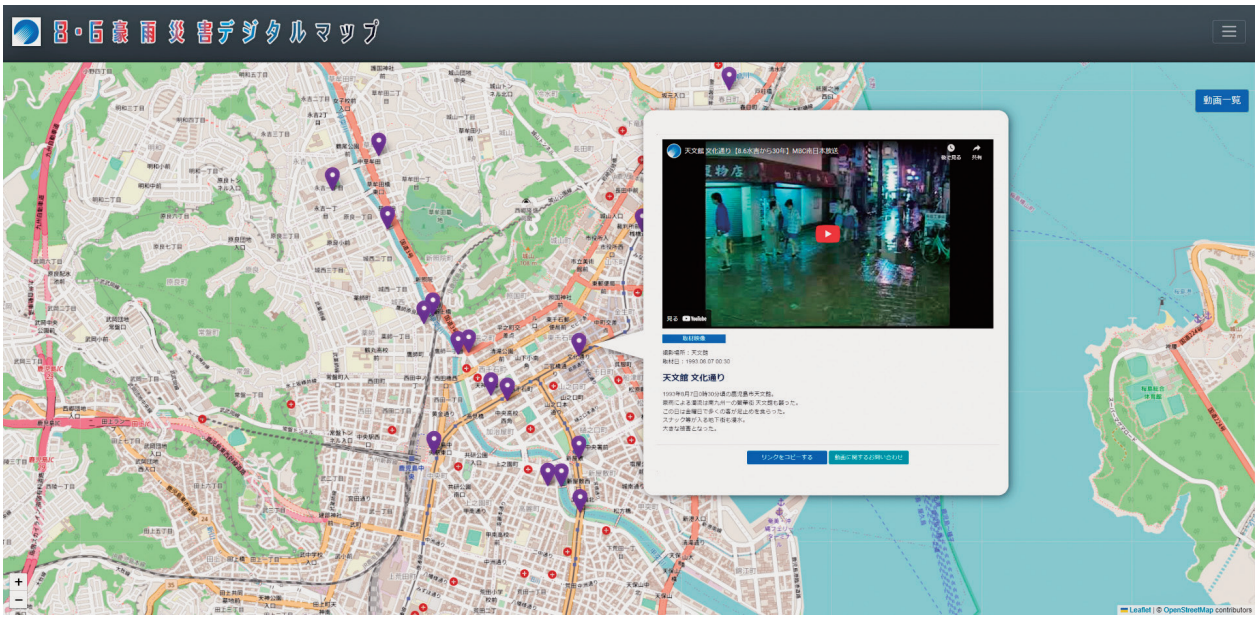
地域ネットワークだより

30年目の節目、あの夏の記憶を刻む

「8・6豪雨災害デジタルマップ運用スタート」

1993年8月6日、鹿児島県を襲った未曾有の豪雨災害から30年が経ちます。局地的な集中豪雨で鹿児島市内を流れる川が氾濫し、街は水没。竜ヶ水地区では列車や車が土石流に巻き込まれ、一時3,000人が孤立しました。死者・行方不明者は49人にのぼり、相次ぐ土砂災害で9月までの犠牲者は120人を超えました。のちに「8・6(ハチロク)水害」と語り継がれることになります。しかし、今現地を訪れてもその場所で災害が起きたとは分からなくなっており、「8・6」を知らない世代も増えて、災害の風化が懸念されています。

▲トップページ画面



▲紫のポイントをクリックすると当時の映像が流れる

MBCには、この豪雨災害を記録した取材テープが約400本保存されています。今回、様々な災害の動画を、その場所ごとに地図上にマッピングしたデジタルマップを作成しました。

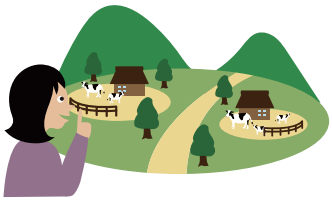
当時の教訓や記憶が薄れていく中、多くの方の目に触れることで記憶を継承し、防災意識の向上に役立つよう、今後は視聴者からの映像や写真も織り交ぜて運用していく予定です。

MBC　8・6豪雨災害　検索

ふるさとたっぷり MBC南日本放送 70th

鹿児島県 移住・交流促進事業

MBCは今年度、鹿児島県から「移住・交流促進のための地域情報等収集・発信業務」の委託を受けており、県内への移住促進を目的としたイベントの企画・運営やコンテンツ制作に取り組んでいます。



◀▼促進会議全体

その一環として、7月28日、鹿児島市鴨池新町の県青少年会館で「かごしま移住・交流促進会議」を開催しました。

この会議は、移住促進業務に取り組んでいる県や市町村の担当者のほか、各地の地域おこし協力隊員などが、情報を共有したり連携を強めるために毎年開催しているもので、今回はオンライン参加とあわせて約100人が参加しました。

会議では、まず県の担当者が、移住促進に活用できる今年度の助成事業などについて説明したあと、東京・有楽町にある移住相談施設「ふるさと回帰支援センター」の職員が施設の概要や相談窓口の業務内容などを紹介しました。

このあと、鎌倉に本社を置き移住やeスポーツなど様々な地方創生事業を手がける株式会社カヤックの倉重宜弘さんが「鹿児島県の移住促進マーケティング戦略と市町村施策のポイント」と題して講演しました。この中で、倉重さんは「移住促進を効果的に進めていくためには、マーケティング視点で施策の目的やターゲットを整理する必要があり、事業を進める上で県と市町村が適切な役割分担・連携を行うことが大切」と指摘。その上で、移住者の行動を各ステップに分けてマーケティング観点で考える「ADCAMモデル」を用いて先進的な取り組みを進めている愛媛県や北海道下川町の事例を紹介しました。

▲えひめ暮らしネットワーク　板垣 義男 代表理事

▲カヤック ちいき資本主義事業部　倉重 宜弘 事業部長

その愛媛で移住を支援しているえひめ暮らしネットワークの板垣義男さんは、2022年度の移住者数が7,162人と過去最高になるなど、愛媛県の移住促進が好調な理由について「県や各市町村が中間支援組織（えひめ暮らしネットワーク）と連携し、切れ目のない相談体制が築けている」と分析した上で、地域おこし協力隊のOB・OGを中心として構成されているえひめ暮らしネットワークの設立の経緯や運営体制などのほか、移住促進を進めていく上で県や各市町村とどのように役割分担しているかなどを具体的な事例を交えて紹介すると、参加者はメモをとるなどして熱心に聞き入っていました。

アニメージュとジブリ展開幕

元気になれそう

©Studio Ghibli ©Kanyada

▲ARを使うと桜島・御楼門上空にラピュタが浮かぶ

▲会場内お客様

MBC創立70周年記念「アニメージュとジブリ展」が鹿児島市黎明館で始まりました。この展覧会は雑誌「アニメージュ」(徳間書店)の1978年創刊当時から80年代に焦点を当て、まだ「アニメ」という言葉さえ広がっていない時代に、「機動戦士ガンダム」の大ヒットによりアニメが大きく飛躍し、同誌の編集者だった鈴木敏夫氏が後のジブリにつながる高畑勲・宮崎駿両監督を見出し、「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」の制作につながる道のりを紹介しています。

会場では、まず「アニメージュ」の誕生前夜に「宇宙戦艦ヤマト」や「銀河鉄道999」など、ブームの火つけ役となった名作をグラフや資料で振り返ったあと、創刊当時の編集部の熱気を再現。さらに若い才能を育てようとクローズアップした「ルパン三世 カリオストロの城」のイメージボードやコンテなどのほか、「風の谷のナウシカ」がどのように生まれたのかを紐解く原画や美術ボードなど、約400点の貴重な資料が展示されています。

▲会場内お客様

入口にはフォトスポットとなっている「ネコバス」が展示され、子どもたちの人気を集めている一方で、一つひとつの資料を丹念に読み進めるコアなファンも多く見受けられ、幅広い世代に楽しめる展覧会となっています。

また、今回は鹿児島市内のレストランなどが「天空の白くま」や「まっくろくろパフェ」といったジブリ作品をオマージュしたメニューを開発、提供しているほか、期間中はAR技術を活用して、御楼門の上に「天空の城 ラピュタ」が浮遊している様子を撮影できるアプリも無料でリリースされており、来場記念に撮影する家族連れの姿も目立っています。この「アニメージュとジブリ展」は10月1日まで開かれています。

熱戦！4年ぶりの舟こぎ競争「奄美まつりウィーク」

奄美群島で最大の夏まつり「奄美まつり」が4年ぶりに開催されることになり、MBCはテレビ・ラジオ・インターネットが連動して「奄美まつり」を盛り上げようと「奄美まつりウィーク」を展開しました。台風6号の影響でパレードややちゃ坊相撲大会は中止となりましたが、「舟こぎ競争」は当初の予定より1週間延期され、8月12日に本番をむかえました。

奄美まつりのハイライト「舟こぎ競争」は伝統の板付け船に8人が乗り込み、往復340メートルのコースで順位を競います。各チームの応援団がチヂン（太鼓）や指笛で声援を送る中、95チームが熱戦を繰り広げました。

この春入社した小野鼓太郎アナウンサー（東京出身）も初めて訪れた奄美で「舟こぎ」にチャレンジ。小野アナウンサーが大勢の島人（しまんちゅ）とふれあった奄美まつりの模様は8月30日水曜日午前9時55分から特別番組として放送されます。

2023 かごしま総文 総合開会式をライブ配信

▲バトンを掲げる鹿児島県代表

「文化部のインターハイ」と呼ばれる全国高等学校総合文化祭が7月29日から1週間にわたって県内各地で開催されました。「かごしま総文」には演劇や吹奏楽、将棋など22部門に全国から約2万人が参加し、7市1町の会場で日頃の成果を披露しました。

初日は、鹿児島市の西原商会アリーナに秋篠宮さま、長男悠仁さまをお迎えして総合開会式が行われ、MBCはこの模様を県のYouTubeチャンネルで生配信しました。鹿児島は47都道府県で最後の開催県となっており、今回で一巡することから、ステージでは47都道府県の代表を1本のバトンでつないだほか、ベトナムやニュージーランド、韓国の高校生も参加して民族芸能を披露しました。

▲第3部 カーテンコール

中でも一番盛り上がったのが「開催地発表」です。「紬（つむ）ぐ・キバる・輝く」をテーマにしたオリジナル劇は、オーディションで選考された19人の高校生が、歴史や偉人に触れながら成長していく様子を熱演し、島唄やマーチング、和太鼓、書道パフォーマンスなどを盛り込んだ1時間のステージは、来場者だけでなく画面の向こうの多くの観客を魅了していました。

2023かごしま総文 総合開会式の模様はアーカイブ配信で視聴することができます。

◀2023 かごしま総文 総合開会式の模様はコチラから

ふるさとたっぷり MBC南日本放送 地域ネットワーク部
編集人：水野 俊彦
TEL 099-254-7165
メール：r-net@mbc.co.jp
FAX 099-254-7009
〔MBCふるさとプロジェクトHP〕